

南信地区内各中学校長 様
陸上競技部顧問 様南信地区中学校体育連盟
会長 原 勝人 公印略

第57回長野県中学校総合体育大会 夏季大会陸上競技南信大会要項

上記の大会を下記により実施いたしますので、多数の参加を期待し、ご通知申し上げます。

記

1. 主催 南信地区中学校体育連盟 一般財団法人長野陸上競技協会
2. 主管 南信地区中学校体育連盟 一般財団法人長野陸上競技協会 上伊那陸上競技協会
3. 後援 上伊那市町村教育委員会連絡協議会 飯伊市町村教育委員会連絡協議会
諏訪地方市町村教育委員会協議会
4. 期 日 2018年(平成30年)5月27日(日) 開始式8時30分 競技開始9時00分(予定)
※選手受付は、7時30分からスタンド前で行う。(予定)
5. 会 場 伊那市陸上競技場(伊那市西町5810番地)

6. 競技種目

(1) 男子(18種目)

1年のみ	100m 1500m ※走幅跳(県大会までの種目です)
2年のみ	100m
3年のみ	100m
2,3年共通	1500m 走幅跳
1,2,3年共通	200m 400m 800m 3000m 110mH 走高跳 棒高跳 砲丸投(5.000kg) 四種競技(①110mH ②砲丸投(4.000kg) ③走高跳 ④400m)
低学年(1,2年のみ)	4×100mリレー(2年は2名以内と1年生で構成する。オーダー(走る順番)は自由。 登録は各学年の人数は問わない) ※県大会までの種目です。
1,2,3年共通	4×100mリレー(低学年4×100mリレーのエントリー、出場と兼ねてはいけない)

(2) 女子(15種目)

1年のみ	100m ※走幅跳(県大会までの種目です)
2年のみ	100m
3年のみ	100m
2,3年共通	走幅跳
1,2,3年共通	200m 800m 1500m 100mH 走高跳 砲丸投(2.721kg) ※棒高跳(県大会までの種目です) 四種競技(①100mH ②走高跳 ③砲丸投(2.721kg) ④200m)
低学年(1,2年のみ)	4×100mリレー(2年生2名以内と1年生で構成する。オーダー(走る順番)は自由。 登録は各学年の人数は問わない) ※県大会までの種目です。
1,2,3年共通	4×100mリレー(低学年4×100mリレーのエントリー、出場と兼ねてはいけない)

[備考]

(1) ハードルは次の規格で行う。

男子110mH 高さ0.914m 個数10台 (インターバル13.72m-9.14m-14.02m)
女子100mH 高さ0.762m 個数10台 (インターバル13.0m-8.0m-15.0m)

- (2) 砲丸投の砲丸は、共通男子が5.000kg、共通男子四種競技が4.000kg、女子が2.721kgを使用する。
- (3) リレー種目においては、いずれか一方のリレーのみの出場とする。

7. 参加資格 ①全国中体連に加盟する南信地区中学校生徒で学校長が参加を認めた者。
②陸連登録者であること

8. 参加制限 <熟読の上、徹底のこと>

- (1) 参加は一人1種目(リレーは除く)とする。
- (2) 個人種目の出場総数は、男子・女子の合計で35名以内とする。(リレーのみの競技者は総数に数えない)
- (3) 男女各同一種目で2名まで出場できる。ただし、1, 2, 3年共通種目は3名まで出場できる。(北信越大会は、1校1種目2名までを推薦する。
男子共通種目は、200m 400m 800m 3000m 110mH 走高跳 棒高跳 砲丸投 四種競技。
女子共通種目は、200m 800m 1500m 100mH 走高跳 砲丸投 棒高跳 四種競技。
- (4) リレーは各種目1校1チームとする。
- (5) 申込後の選手の交替、種目変更は原則として認めない。ただし、故障者に限り診断書を用意して5月25日(金)午後5時までに、南信専門委員長 橋場(赤穂中)へ電話連絡する。

9. 競技規則 2018年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項による。

10. 競技細則

- (1)トラック競技(100m, 200m, 400m, 100mH, 110mH, リレー)の予選はタイムレースとして、タイム順で8名(チーム)までが決勝へ進むことができる。その際、決勝進出者が9名以上になった場合、2018年度競技規則167条にそって進出者を決める。また、抽選が必要な場合は選手自身が抽選するものとする。
- (2) 800m, 1500m, 3000mは予選を行わず、タイムレース決勝とする。
- (3) 800mはオープンスタートに、3000mはグループスタートにする場合がある。
- (4) プログラム記載の競技開始時刻20分前(各種目とも)に招集所において出場者の点呼を完了する。本人が必ず点呼を受け、ナンバーカードとスパイクピンの確認を受けること。点呼を受けない者は棄権とみなし出場を認めない。(リレーと個人種目が重なる場合には点呼時に競技者係に申し出ること。)棒高跳参加者については、競技開始時刻60分前に招集所にて点呼を完了する。
- (5)トラック競技において各レースで不正スタートした競技者はすべて失格とする。(混成競技についてはレースの2回目以降に不正スタートを行った競技者が失格となる)
- (6) 競技規則第162条5(C)「スタートにおける警告」に関する2018年度改正ルールは適用せず、注意にとどめます。詳しくは別紙「2018年度競技規則修改のポイント」を参照してください。
- (7) 走高跳のバーの上げ方は次による。ただし、天候等の条件により変更する場合がある。
男子・・・練習1m30 1m35・40・45・50・55・60・65・70・73…以降3cmずつ
練習1m50
女子・・・練習1m15 1m20・25・30・35・40・45・48…以降3cmずつ
練習1m35
- (8) 四種競技の走高跳のバーの上げ方は次による。
男子・・・練習1m25 1m30・35・40・45・50・55・60・63…以降3cmずつ
練習1m40
女子・・・練習1m10 1m15・20・25・30・35・38…以降3cmずつ
練習1m25
- (9) 棒高跳のバーの上げ方は次による。
男子・・・練習2m20 2m30・50……………以降10cmずつ
女子・・・練習1m80 1m90・2m00……………以降10cmずつ
- (10) 走幅跳・砲丸投は、計測ラインを設けることもある。
- (11) ナンバーカードは4カ所を正確に止め、胸と背に固定する。折らない。ただし、走高跳の競技者は背または胸のどちらか一方、棒高跳の競技者は背のみ、走幅跳の競技者は胸のみにつけるだけでも良い。

11. 表彰 各種目の8位までに賞状を贈る

12. 申込方法 <熟読の上、徹底のこと>

長野陸協ホームページ(<http://nagano-rk.com/>)のエントリーセンターより申込用紙をダウンロードし、必要事項を記載し、エントリーセンターより送信する。(記録を必ず記入すること。プログラム編成の際、記録を参考にして編成を行います。)また、申込一覧を印刷し、職印を押印した用紙を、FAXにて赤穂中へ送る。

※番号欄には、各中学校に割り当てられたナンバー(中体連HPにてご確認ください)を入力して下さい。当日は必ず同じ番号のナンバーカードを持参して下さい。

※期日までにエントリーされない場合は、不参加とみなします。FAX送信だけでは、申込は成立しません。



(1)5月11日(金)までに行うこと

①エントリーセンターへの申込

②申込一覧表を印刷し、職印を押印した用紙を、FAXにて赤穂中学校(橋場直啓)へ送る。
FAX 0265-81-5071

(2)大会当日持参し、受付にて提出するもの

①申込一覧表を印刷し、職印を押印した用紙

②申込人数分のプログラム代金(1部400円×人数分)

※細部に関するご質問は、各地区専門委員長へお問い合わせください。

【各地区専門委員長(問い合わせ先)】

地区名	専門委員	学校名	〒・学校住所・TEL
諏訪	武居 悠輔	永 明	〒391-0002 茅野市塚原1-10-6 Tel 0266-72-2364
上伊那	橋場 直啓	赤 穂	〒389-4117 駒ヶ根市赤穂4704番地 Tel 0265-83-3161
下伊那	中嶋 慎也	飯田高陵	〒395-0004 飯田市上郷黒田5485 Tel 0265-22-1163

13. その他

- 各種目上位8名(リレーチームは8チーム)は県大会の出場権を得る。同記録や同順位により8位となる競技者が多数となった場合は、該当する全ての競技者に県大会への出場権を与える。全日中大会及び北信越大会は全種目が対象となる。(但し、低学年リレー、1年男女走幅跳、女子棒高跳は県大会まで)
- 全日中大会へは、県大会、通信陸上大会及び混成競技大会において参加標準記録に到達した選手のみが出場できる。
- 県大会への申込は、下記記載のホームページに掲載される要項にそって行うこと。
- 北信越大会は、石川県金沢市8/7、8。全日中大会は岡山県岡山市(8/18~21)で開催される。
- ジュニアオリンピック大会には、各種目とも標準記録に到達したものと及び、県陸協から推薦されたものが出場できる。
- 選手宣誓は、上伊那地区の生徒が行う。(下伊那→上伊那→諏訪の輪番とする。)
- 選手および応援者ともに、使用場所を各学校の責任において必ず清掃し、ごみは持ち帰る。
- 各学校はプログラムを申込者全員購入のこと。当日受付で申込部数代金と引換にて受け取る。
(1部400円、参加校へは1部無償で配布)
- ウォーミングアップは競技の妨げにならない空いているスペース又は、競技場西の富士塚グラウンドのランニング周回コースで行う。その際、スタート号砲に合わせてのスタート練習は行わない。また、安全には十分注意して行う。道路でのウォーミングアップ等は選手の安全確保のため禁止とする。
- 選手等の携帯テントを張る際は、風で飛ばされないように、しっかりと固定する。
- 更衣室は競技場のものを使用してよいが、控室や休憩室として利用することがないように指導されたい。
- リレーの際に使用するダッシュライン用テープ(50mm×400mm以内のものを1カ所のみ)は、各校で用意する。また、リレー終了後、使用したテープは、前走者が剥がして持ち帰るなど必ず各校で片付ける。
- リレーのユニフォームは、各校統一のものを用意する。
- 引率及び保護者の応援等の車は必ず競技場周辺駐車場を利用すること。(路上駐車及び周辺店舗の駐車場への駐車は厳禁)参加校は、応援者、保護者の方へこのことを周知徹底させること。
- 開閉会式はフィールド内に整列することなく放送にて行う。各校、座席前に整列して参加すること。
- テントエリアの場所取りは、前日17:00以降であれば許可するが、各校良識の範囲内とすること。当日場所の確保ができない学校がある場合は、大会本部において会場整理を行うこともある。その場合速やかにご協力いただきたい。
- その他必要事項については係員の指示による。

【重要】

長野県中学校体育連盟主催の陸上競技大会要項及び連絡事項は、

◇長野県中学校体育連盟陸上競技部のホームページ◇

<https://sites.google.com/site/naganojhtrackandfield/>

◇長野陸上競技協会ホームページ◇

<http://nagano-rk.com/>

に掲載いたしますので、ご確認ください。

【問い合わせ連絡先】

南信地区中学校体育連盟陸上競技専門委員長

駒ヶ根市立赤穂中学校 橋場直啓

学校 電話 0265-83-3161

FAX 0265-81-5107

携帯 090-6948-2061

平成30年4月19日

南信地区各中学校
学 校 長 様
保 健 体 育 主 任 様
陸 上 競 技 部 顧 問 様
陸 上 競 技 関 係 職 員 様

南信地区中学校保健体育・スポーツ振興協議会
会 長 原 勝 人
(公 印 略)

南信陸上競技大会における競技役員の派遣について（お願い）

日頃より当協議会の活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

今年度も南信地区中学校陸上競技大会の開催が近づいて参りました。陸上競技大会は100名を超える競技役員を必要とし、南信地区では例年、各地区より陸上競技部の有無にかかわらず、また当日のエントリーの有無に関わらず多くの学校の先生方にご協力をいただいて競技運営を行っております。

他競技の地区大会に向けて準備も最盛期であろうかと思いますが、何とぞご理解いただき、競技役員としてご協力いただける先生方を派遣いただきますよう、よろしく願いいたします。

記

- 1 大会日時 平成30年5月27日（日） 7：30～17：30頃（予定）
※役員部署により多少変わります。
- 2 会 場 伊那市陸上競技場（伊那市西町5810番地）
- 3 申込方法 各地区の陸上競技専門委員長より改めて依頼がありますので、その際ご協力いただける先生をお知らせ下さい。
- 4 手 当 ①生徒引率がない場合は旅費として500円(上伊那郡外は1,000円)支給いたします。
②昼食代として600円支給いたします。
- 5 その他 競技役員の構成が決まり次第、正式な協力役員依頼書を発送させていただきます。部署・集合時間等、そちらでご確認ください。

以上、よろしく願いいたします。

<問い合わせ先>

南信地区中体連陸上競技専門委員会
専門委員長 橋場直啓
(駒ヶ根市立赤穂中学校)

駒ヶ根市赤穂4704番地

TEL 0265-83-3161

○第144条 競技者に対する助力

競技者間での禁止行為の追加。

⇒転倒後、立ち上がることを手助けすることは認められるが、前に進むための身体的手助けは禁止。

⇒繰り返し行われる競技者間での水・飲食物等の受渡し。(164条15、230条10、240条8)

許可される身体保護具類の追加。

⇒冷却機能付きリストバンド、携帯用酸素ボンベ等の呼吸補助具。指定場所で渡される(または審判長が認めた場合の)帽子、手袋、靴や衣類が追加された。

○第162条5 スタート時の不適切行為の扱いについて

不適切行為に関わる文言が追加 いわゆる“ピクつき動作”は警告の対象になる場合も。

⇒スタート時の不適切行為として、3つが示されている。(今回、下線部が追加された)

(a) 合図の後で正当な理由もなく手を挙げたり、クラウチングの姿勢から立ち上がったりする。

(b) 合図に従わない、遅れることなく速やかに最終の「用意」の位置につかない。

(c) 音声や動作その他の方法で、他の競技者を妨害した。

この場合、審判長は競技者に「警告(イエローカード)を与えることができる」としている。その競技会中に(他種目であっても)警告を2回受けた場合は失格となり、その競技会に出場予定の他種目についても出場できなくなる。

日本陸連主催・共催大会(IH、全中、JOを含む)以外の競技会については、主催者がこの条項を適用するか否かを決めることができる。適用しない場合は、スタート時の不適切行為の取り扱い方法が大会要項や競技注意事項に明記されるので、それぞれ熟読した上で競技に参加すること。

○第170条3 テイクオーバーゾーン

400mRの全て、800mRとメドレーリレーの1~2、2~3走のテイクオーバーゾーンが30mに。

⇒従来の加速ゾーンを含めた30mがテイクオーバーゾーンとなる(ブルーラインがゾーン入口)。競技場検定工事までの間はトラックのラインが修正されないため、テープ等で表示される。なお、この修改正に伴い、全てのバトンパスにおいてゾーンの中から走り出さなくてはならない。

○第170条11 リレーチームの編成

オーダーは締め切り前であっても一度提出したらその後の変更は禁止。(例外として医務員の判断があれば変更可)

⇒なお、医務員の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない(IAAFの運用に合わせた)。

○第180条17 試技時間

棒高跳を除いた4人以上または各競技者の最初の試技時間が1分⇒30秒に変更。

⇒試技時間の表は以下の通り。

《単独種目》				《混成競技》			
残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他	残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	30秒	1分	30秒	4人以上※	30秒	1分	30秒
2~3人	1分30秒	2分	1分	2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—	1人または連続試技	2分	3分	2分
連続試技	2分	3分	2分	※4人以上または各競技者の最初の試技			

走高跳・棒高跳で優勝が決まり大会記録等に挑戦する場合は、定められた制限時間を1分延長。

⇒日本記録、県記録、大会記録等の場合が対象。標準記録への挑戦は対象にならない。

○第181条4 バーの上げ幅

残りの競技者が2人以上でも全員の同意があれば大会記録を超える高さにバーを上げることが可能。

⇒競技者が最後の一人になり優勝が決まるまでは「(a) バーは走高跳で2cm、棒高跳で5cmより少ない上げ方をしてはならない (b) またバーの上げ幅を増してはならない」が基本になるが、2人以上でも全員の同意があれば、この基本を適用せずに大会記録等(従来は日本記録のみ)に挑戦可能となる。

○第187条14(b) 投てき競技(回転系)の無効試技の判定

最初の回転動作を行う際に、後方のサークル外側の地面に足が触れる程度であれば無効としない。

⇒サークルに入り最初の回転動作を行う際に、サークルの両側白線より完全に後方のサークルの外側の地面に足が触れても、推進力を得ることがなければ(地面に触れる程度であれば)無効としない。

○第187条15 投てき競技 試技の中断

一度始めた試技を中断する際、競技者がサークルや助走路から出てもよい。

⇒ただし、「各投てき競技の規則に反しない限り」の条件があるので注意が必要である。

(裏面に続く)



○第 200 条 混成競技

競技者が同じ得点を取った場合は、同成績とする。

⇒従来 同得点だった場合、より多くの得点を取った種目が多い者を上位としたが、同成績に。

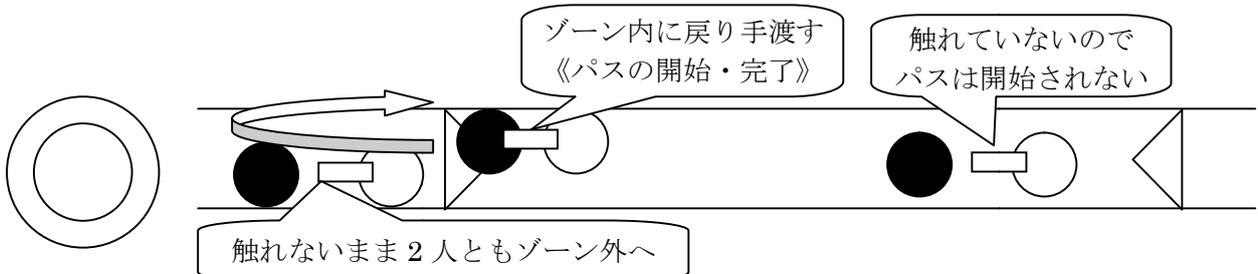
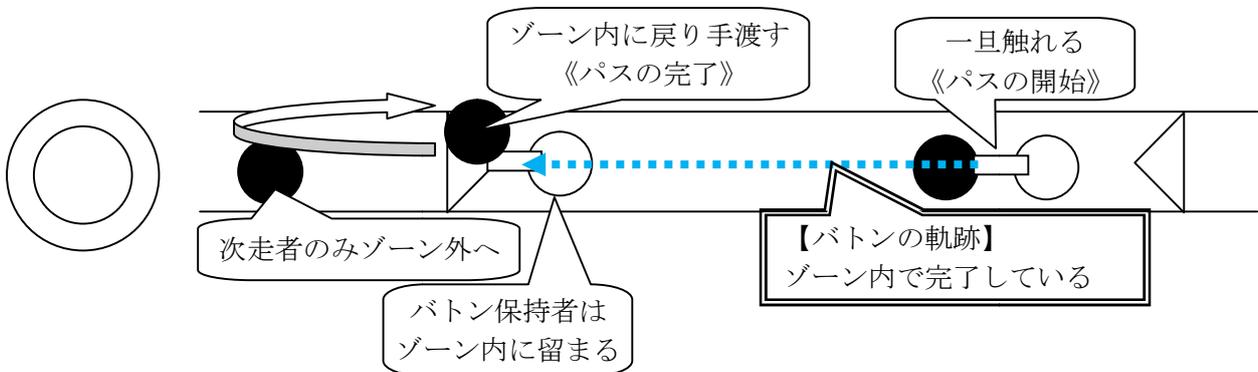
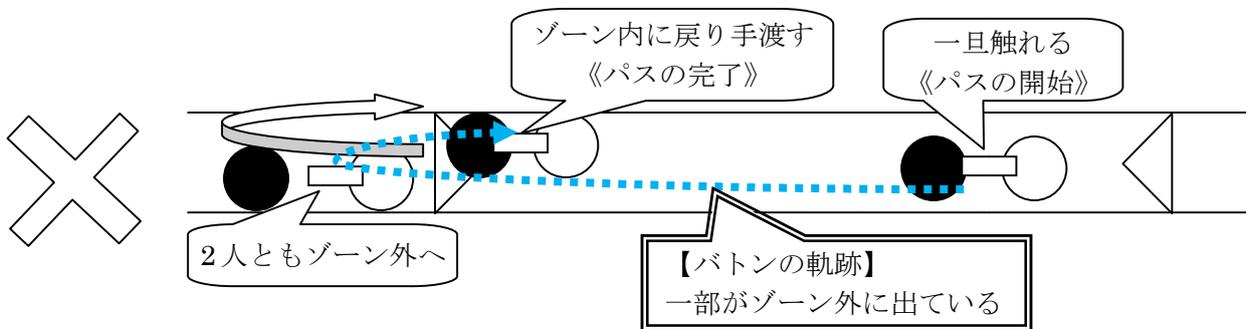
《参考：ルール解釈の確認》

○第 170 条 7 リレーにおけるバトンの受け渡し

バトンのパスは、受け取る競技者にバトンが触れた時点に始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。それはあくまでもテイクオーバーゾーン内でのバトンの位置のみが決定的なものであり、競技者の身体的位置ではない。

⇒この条文より、「触れた時点」「唯一の保持者になった瞬間」の2点が強調されてきたが、この2点の間もバトンパスの最中と言える。したがって、この最中にテイクオーバーゾーン外に出てしまった場合も、失格の対象となるので注意が必要である。

例えば、テイクオーバーゾーン内で一旦次走者にバトンが触れたが、完全にパスが行われないうまま2人ともゾーン外に出てしまい、ゾーン内に戻ってパスを完了させた場合、今までの解釈だと「触れた時点」「唯一の保持者になった瞬間」がゾーン内であるので失格の判定にならなかったが、バトンパスの最中（開始～完了の間）にバトンがゾーン外に出ているので、失格の対象となる。



詳細については、審判講習会資料もしくは 2018 年度版陸上競技ルールブックを参照されたい。

文責：青柳 智之（日本陸上競技連盟競技運営委員・JTO／長野陸上競技協会競技運営委員長）

